【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和7年5月29日(2025.5.29)

【公開番号】特開2023-155472(P2023-155472A)
【公開日】令和5年10月20日(2023.10.20)
【年通号数】公開公報(特許)2023-198
【出願番号】特願2023-142145(P2023-142145)
【国際特許分類】
*Ａ６１Ｂ 17/22(2006.01)*
*Ａ６１Ｆ 2/01(2006.01)*
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ 17/22 ５２８
Ａ６１Ｆ 2/01

【誤訳訂正書】
【提出日】令和7年5月21日(2025.5.21)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
塞栓保護デバイスであって、前記塞栓保護デバイスは、
近位端と遠位端とを有するカテーテルと、
前記カテーテルの前記遠位端に対して近位に配置されている自己拡張式塞栓フィルタであって、前記自己拡張式塞栓フィルタは、フレームを備え、前記フレームは、前記自己拡張式塞栓フィルタの開口部を画定し、前記フレームは、
前記遠位端に対して近位にある、前記カテーテルに結合されている固定部分であって、前記固定部分は、縦方向に移動しない、固定部分と、
前記フレームの前記固定部分と連続的である移動可能部分と
を含む、自己拡張式塞栓フィルタと、
前記自己拡張式塞栓フィルタの前記フレームに結合されているワイヤであって、前記ワイヤは、前記カテーテルに対して縦方向に移動可能である、ワイヤと
を備え、
前記ワイヤは、前記ワイヤが縦方向に後退されたときに、前記自己拡張式塞栓フィルタの前記開口部が前記カテーテルの前記遠位端に面するように、前記フレームの前記移動可能部分を縦方向に押勢し、前記カテーテルの前記近位端に向かって縦方向に、かつ、前記カテーテルから側方に外向きに、前記フレームを屈曲するように構成されている、塞栓保護デバイス。
【請求項２】
前記ワイヤは、遠位結合部において前記フレームに結合されている、請求項１に記載の塞栓保護デバイス。
【請求項３】
前記ワイヤは、前記ワイヤが近位位置まで縦方向に後退されたときに、前記自己拡張式塞栓フィルタの前記開口部が前記カテーテルの縦軸に対して垂直であるように、前記フレームを屈曲するように構成されている、請求項１に記載の塞栓保護デバイス。
【請求項４】
前記ワイヤは、前記ワイヤが遠位位置まで縦方向に前進されたときに、前記自己拡張式

塞栓フィルタの前記開口部が前記カテーテルの縦軸に対して平行であるように、または、前記自己拡張式塞栓フィルタの前記開口部が前記カテーテルの縦軸に対して４５度未満に角度を付けられるように、前記フレームを位置付けるように構成されている、請求項１に記載の塞栓保護デバイス。

【請求項５】

前記塞栓保護デバイスは、ハンドルをさらに備え、前記ハンドルは、前記ワイヤを前進させるまたは後退させるように構成されている機構を備える、請求項１に記載の塞栓保護デバイス。

【請求項６】

前記ワイヤは、前記フレームの前記移動可能部分に結合されている、請求項１に記載の塞栓保護デバイス。

【請求項７】

前記カテーテルは、前記自己拡張式塞栓フィルタの前記開口部を通して延在する、請求項１に記載の塞栓保護デバイス。

【請求項８】

前記カテーテルは、

前記カテーテルの縦軸に沿って前記近位端から前記遠位端まで延在し、かつ、前記カテーテルの前記遠位端から延在する管腔であって、前記管腔は、前記カテーテルに係合するように構成されているガイドワイヤを収納するように構成されている、管腔と、

前記カテーテルの前記管腔と連通する１つ以上の開口と

を備える、請求項１に記載の塞栓保護デバイス。

【請求項９】

前記フレームによって画定される前記自己拡張式塞栓フィルタの前記開口部は、楕円の形状である、請求項１に記載の塞栓保護デバイス。

【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００８４

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００８４】

いくつかの実施形態では、偏向器４６０および塞栓フィルタ４１０は、別のタイプのカテーテル、例えば、弓形形状を成すように構成される遠位部分を伴わないカテーテルに結合されることができる。塞栓フィルタ４１０は、図１Ａ－１Ｄ、図２Ａおよび２Ｂに示され、本明細書に説明される、塞栓フィルタ１１０および２１０に類似し得る。いくつかの実施形態では、塞栓フィルタ４１０は、例えば、図４Ａ－４Ｂに示されるように、偏向器４６０の近位でカテーテル４０２に結合される。いくつかの実施形態では、塞栓フィルタ４１０は、偏向器４６０の遠位でカテーテル４０２に結合される。塞栓フィルタ４１０は、カテーテル４０２の周囲に配置されるように結合される。本構成は、有利なこととして、身体管腔９９２（図９Ｄ参照）内のカテーテル４０２の位置が、展開された偏向器４６０による影響を受け得るにつれて、塞栓フィルタ４１０が内部身体管腔９９２（図９Ｄ参照）壁に係合することを可能にする。